

# 2018年11月27日掲載 輸送経済新聞



新・札幌支店はバース両面がインドア仕様

## 第一貨物 新・札幌支店オープン 北海道の特積みを強化

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）は26日、新・札幌支店（写真）をオープン。立地や設備の良くなった新たな特積み拠点でも営業を開始した。（松井 悠）



武藤幸規社長の21日のおあいさつ

今回の移転は、昭和48年10月から営業していた旧・札幌支店（札幌市清田区）の老朽化に伴い計画していたもの。昨年7月に土地を取得し、今年4月に着工。今月21日にしゅん工した。

所在地は北海道北広島市大曲幸町1ノ7ノ1。道央自動車道北広島インターチェンジに近く、国道36号沿いという好立地で、輸送効率のさらなる改善を見込む。

### 作業環境を整え 高品質な輸送

敷地面積は約2万7000平方メートル。鉄骨平屋建てで事務所を含めた延床面積は約7300平方メートル。敷地、約2500平方メートルの荷さき場とも旧支店の1・2倍となった。保有車両は71台、従業員は81人。

荷さき場への風雨・風雪の吹き込みを考慮し、バースは大型車側、集配車側の両面が屋根付きのインドア仕様。ドライバークラスの作業環境も整え、冬季でも高品質な輸送を実現する。インドア内はコンクリート舗装により耐久性も確保した。屋根は北海道の乾いた雪質に対応。水雪落下の被害が少なく雪下ろしが不要な屋根を採用した。省エネにも配慮。荷さき場と管理棟に4方向の長寿命LED（発光ダイオード）照明を採用。蛍光灯に比べ70%の省エネになるといふ。従業員らの出入り口には風除室を設け、空調負荷を低減。事務所棟の外壁と屋根には、寒冷地特有の結露、凍害を防止するため、室内温度の安定に高い効果がある外断熱工法を用いた。

### 施設生かし 「一層励む」

国道36号に面した敷地出入り口には、歩行者の安全のため、車路管制設備を設置。ロードヒータを敷設し、凍結にもよるスリップ回避も図られている。21日、武藤社長は「特開かれ、武藤社長は「特積み事業の拡大に一層励む」とどんどん荷物を運んでいきたい」と話した。現状、発着荷物はどちらにも1日当たり約200トン。すでに問い合わせを受けており、新規開拓を含め営業を進めている。来賓として駆け付けた上野正三北広島市長は「街づくり、商工業の振興、新たな企業誘致に弾みがつく」と新・札幌支店の移転を歓迎した。